

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100514		
法人名	社会福祉法人 みつき福祉会		
事業所名	グループホーム ひさご苑 1F		
所在地	島根県松江市浜佐田町125番地		
自己評価作成日	令和元年12月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモプレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ、四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子ども達の姿を目にすることができます。誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会等で園児との交流も積極的に行っています。又、当苑でも敬老会等の恒例行事や季節の外出、入居者様の誕生月には、プレゼントを用意しお祝いさせていただいております。入居者様との触れ合いを大切にして、沢山の笑顔が見られるように職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰め所の目の付くところに掲示し、理念に基づいた実践を心がけている。	開所時に作成した理念を継続。事務所の目の付きやすい場所に掲示し意識している。新人職員には指導者を付け業務の流れとともに伝え、また会議の場でも取り上げ意識統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には会報をポスティングさせて頂いている。又、イベント時などは地域のボランティアの方々にもご協力させて頂いている。	隣に保育所があり毎月誕生会を見学したり一緒にお祝いをする事もある。他にも保育所の行事に参加したり、敬老の日やハロウィンには訪問があるなど交流が盛ん。敬老会には地域からコーラス等のボランティアもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉学校の生徒の体験実習の受け入れは行っているが、地域の方に向けては行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を検討し、サービス向上に活かしている。	家族の参加は少ないが、市の担当課、包括職員に地域からは民生委員、町内会長、公民館長、交番の警察官に保育所の園長など多くの参加者で定期的開催している。利用者の状況や行事や事故等の報告を行い意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から指導を受けたことは、すぐに改善に努めている。	運営推進会議には担当課や包括から毎回参加があり意見を得ている。生活保護の方が3名あり市の担当課とは料金の調整等情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加やカンファレンス等で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止と合わせて研修を行ったり、3か月に1回の委員会では具体的な例をあげて理解するようにしている。夕方から翌朝までは玄関の施錠をしているが、ほかの時間は施錠せず拘束をしないケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部会などの研修に参加している。その後、職員会議などの場で参加した職員に研修発表の機会を設け、知識の共有や防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に勉強している職員はいるが、現在成年後見制度を活用しているケースはなく、支援等はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時には十分に話し合う機会を設けて説明させて頂き、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞くようにし、運営に反映させている。	不定期だが年に数回会報を作成して配布している。また、担当職員が毎月写真とともに様子を伝える手紙を家族に送っている。年1回の敬老会には家族を招き意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は管理者が聞き、代表者に伝えて検討して頂いている。	施設長は必要と判断した場合個人的に面談する機会を設けている。職員会議等で意見を聞くようにしており、内容により理事長に報告することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の努力や実績、勤務態度を見て評価し、代表者に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部会などの研修に参加し、会議などで研修発表の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や要望を大切にしながら、より良い関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所された際には、できるだけ会話をし、信頼関係を築いて不安や要望を気兼ねなく話して下さるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に利用者、家族に面接をして思いや状況等を確認し、必要な支援ができるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができること、得意なことは積極的にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で本人の様子を報告し、ご家族の状況に合わせて支援や協力をして頂くよう声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方なども気兼ねなく面会に来れる雰囲気を作り出せるよう努めている。	新しい年の行事として初詣に出かけている。誕生日外出では思い出のお店に出かけ食事をするなど、昔からの習慣や場所が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、関係が円滑になるような席に配慮したり、職員も交え、一緒に作業することで孤立されることが無いよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた際には情報提供し、今までの暮らしの継続性が損なわれないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話の中からも想いを汲み取るよう努め、ケアプランに反映させている。	行きたい所や食べたいものなど日ごろの会話の中で聞くようにしており、出た意見は記録に残しており、面会時には家族に話を聞いている。家への思い入れやお寺に行きたいなどの意見はプランに反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや、本人、家族の話から情報を収集し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察によって現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に想いや意見を聞き、プランを作成している。モニタリングを行い、現状に即したプランができるよう努めている。	家族関係者に担当者会議の日時を連絡し参加をお願いしている。モニタリングはチェックする形で記録に残しており、現状に合わせた計画に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し身体状況や日々の暮らしの様子を記録している。又、申し送りや連絡帳に記入をし、情報を共有して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ご家族の要望や状況に応じて、できる限り柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブや外出の機会を通して買い物やお茶をするなど、利用者が楽しんで暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。月1回の往診に来て頂き、体調不良や急変時には報告して指示を受けている。	往診可能な協力医に変わることも、今までのかかりつけ医の往診を受けることもできるようになっている。訪問看護とも契約し定期の訪問を受けており、急変時の対応も可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、訪問看護師が来所の際に状況を報告している。又、急変時に介護職が判断できない場合は電話で報告して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供書の交換を行っている。定期的に面会に行き、家族、看護師等から話を聞き、状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の在り方に事業所でできることを説明しており、ご本人の状態を見ながらご家族や主治医と相談して対応している。	積極的に看取りに取り組むことはしていないが、昨年急変で亡くなられたケースがあった。入所時に重度化した場合の対応や、特老への申し込みについても説明するようにしている。	幅広い内容の研修を重ねることで個々のスキルアップに繋げていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備しており、緊急時には、かかりつけ医など医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ、連絡網を通して職員間でも連絡を取り合い、速やかに対応している。応急手当能力には不安が残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	年2回火災を主に昼間と夜間を想定し訓練を実施している。隣の保育所と合同で行うこともあり、消火器の使い方や通報訓練を行っている。敷地も広い為離れた場所への移動を中心に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者に合わせた声かけを心がけ、温かく優しい雰囲気でお話しかけるよう心がけている。	TELの受け答えや面会時など外部の方への対応など接客については新人職員研修で行っている。敬語や方言の使い方については相手が不快に感じないようにし、言葉の虐待を含め会議の場で話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が一人ひとりの利用者と日々会話を交わして信頼関係を築く努力をし、ご本人が気持ちを言いやすいような関係性を作れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の希望や体調面を考慮しながら、できる限り希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は本人に任せている。援助が必要な方もできるだけ本人の好みを聞き出し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、厨房職員を募集中で食事は外部発注している為、下準備など一緒に作業をする機会が持っていない。	副食は外部の配達を利用しているため、下準備などを一緒にすることはなく、料理が利用者の口に合わない時もあり、検討の必要性を感じている。食事前には口腔体操や歌を歌うことを日課として続けている。	おやつを作るなど食事を楽しむ工夫を検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回チェックしている。量や形態も利用者の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声をかけ、できない方には介助させて頂き、嚥下障害による肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を確認してトイレ誘導している。	重度の方がいないためおむつ使用はない。トイレで排泄するようにしており、声がけしたりタイミングみて確認するなど個々に合わせた対応としている。紙パンツにパットの方がほとんどで尿量に合わせてパットを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を確認しながら、牛乳やヨーグルト等を状況に応じて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は定めさせて頂いているが、利用者の希望や体調を考慮して柔軟に対応している。	週に2回午前中に入浴するようにしている。一般的な家庭浴槽の為重度の場合は2人介助で対応していたが、今は重度の方がいない為全員ゆっくり湯舟につかりくつろげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スペースを尊重しながら、希望や体調を考慮し、できるだけ日中の活動を高めて頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに保管し、全職員が分かるようにしている。変更時はケース記録と連絡ノートに記入し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	刺し子や、ちぎり絵等をされる場合は、職員が図面を下書きし支援するなど、その方の趣味・得意分野を活かし、継続して頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出(花見等)は職員が企画し、外出支援に努めている。	花見、紅葉狩り、初詣、外食等の外出行事は計画的に行われているが、普段は気候のいい時には裏庭やベランダでお茶を楽しんでいる。敷地内を散歩したり、隣の保育所の行事に出かけることも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の希望でお金を持って頂くことも可能だが、利用者本人が持っているお金の管理、把握は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば取り次ぐようにしている。ご自分で携帯電話を持っている方もいるが使い方が分からない時があり、職員が教えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿って飾るものを変えたりして季節感を取り入れるよう努めている。	ホールからは外の景色がよく見え明るく四季を感じることができる。道路からも入っているので車の騒音等もなく静か。ホールから続く廊下の両側に居室があり、廊下もホールも移動に十分な広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話ができるよう席の配置に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望で馴染みのある家具を持ち込んでいる方もいる。	今まで使っていた物の持ち込みを勧めており、タンスやテレビ、ソファなど衣装ケース等が置かれている。ベッドに寝る習慣のない方には布団を敷いて対応。収納スペースがあるので部屋が広く使えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた物の配置に配慮している。		